

三津浜地区タウンミーティング

平成23年8月30日（火曜）

【市長】 皆様こんばんは。平日の夜間です、またお仕事がある方がもちろんいらっしゃると思いますので、お疲れのところこのように集まっていたいてありがとうございます。このタウンミーティングの開催にあたりましては、三津浜地区まちづくり協議会の会長をはじめ役員の皆様、そして地域の皆様にご協力をいただきましてありがとうございます。

先ほど司会のほうからありましたように、このタウンミーティング、松山市内には41地区、公民館の本館地区で考えます41地区あります。今日はちょうど10カ所目ということになります。当初は市長の任期は4年ですので、41地区、1カ月に1カ所のペースで回っていこう、そしたら4年で回れるかなと思ったんですけども、おかげさまで好評でして、そのタウンミーティングを重ねるごとに、私たち市役所の知らなかった気づきがありますし、地区の方にも同様に気づきがありますので、おかげさまで好評となっております。ですので、できるだけ早く市政に反映させていきたいと思い、1カ月に1回のペースを今2回のペース、議会があるときはそうもいかないんですけど、できるだけ1カ月に2回のペースで進めるようにしております。このタウンミーティングなんですけども、私が市長に就任してからやることになりましたけども、市役所の職員からするとしんどい仕事なんです。なんでしんどい仕事かというと、市役所の席に座って皆さんが来るのを待つほうが楽ですよ。でも私たちのほうから各地区に出向いていきましょう。出向いて行って各地区の魅力を聞かせていただく、そして各地区の課題ですとか問題点を聞かせていただくという、一つしんどいことをしましょうということにしております。そして、聞きっぱなしやりっぱなしにすると楽なんですけど、それはいたしません。必ずこの松山版のタウンミーティングというのは皆さんから出た意見、ここでお答えできるものはお答えいたします。当然、松山市の仕事というのは幅広いですから、例えば松山市立小中学校がある、図書館もある、クリーンセンターもある、上水道もある、下水道もある、競輪場もある、とっても幅広い仕事になりますから、答えられないものもあると思います。そういうものは例えば国と絡むもの、県と絡むもの、財政上の問題というのもありま

すので、そういったものは必ず持ち帰らせていただいて、国に問い合わせる、県に問い合わせる、向こうから返事が返ってくる、こちらの回答をまとめるということをする、だいたい1カ月くらいかかってしまうことあるんですけど、必ず1カ月をめどに皆さんのところに返事をお返ししております。やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないというのが松山版のタウンミーティングであります。それを1カ月に1回を、1カ月に2回のペースに早めているものですから職員たちはなおしんどいことだと思うんですけど、しんどいことをしましょう、しんどいことをしたらその向こうにはなお一層の市民の方の笑顔が待ってるじゃないですか、ということで今1カ月に2回のペースに速めてやっているところです。

そしてこのタウンミーティングは、まずあちらにも書いていますように、最初のテーマ1としては地区の魅力について語っていただきます。これは各地区で、それぞれやっぱり、三津浜だったら三津浜、桑原だったら桑原、雄郡だったら雄郡、昔それぞれが村だったように各地で歴史があります、特徴があります。その特徴をきっちりにとらえていただくといいまちづくりができる。逆に魅力をしつかりとらえられないとまちづくりが変な方向にいつてしまう、というふうに私は考えております。ですから魅力をきちんととらえていただくこと、一緒に話し合うことが大切だと考えております。そしてもちろん課題点や問題点についても聞かしていただきます。それではこのタウンミーティング、必ず各部の担当、各課の担当を連れてきておりますのでそれぞれに自己紹介をさせます。

【市民部長】 市民部長の三好でございます。このタウンミーティングの統括をいたしております。よろしくお願いいたします。

【保健福祉政策課長】 保健福祉関係を担当しております保健福祉部の大濱でございます。よろしくお願いいたします。

【都市政策課長】 道路、公園など担当しております都市整備部の白石です。よろしくお願いいたします。

【産業政策課長】 産業経済部の中西と申します。産業経済部では今、三津浜地区まちづくり協議会と一緒に協議をさせていただいております。三津の朝市の活性化事業をはじめとして、地域経済、雇用、観光事業、農林水産事業、こういった事業を産業経済部のほうでやっております。よろしくお願いいたします。

【保健体育課長】 教育委員会保健体育課長の松木でございます。学校給食、学

校保健を担当しております。よろしくお願いいたします。

【消防局総務課長】 消防局総務課の岡本でございます。消防と地域防災全般を担当しておりますのでよろしくお願いいたします。

【市長】 よろしく申し上げます。最後にお話しいたしました消防の岡本課長は、もともとレスキューの担当です。現場に出かけて行ってレスキューの活動をしていたと、それが専門の仕事でございます。その担当等もそろってタウンミーティングになりますけども、皆さんと前向きな議論をさせていただいて、これからのまちづくりに活かしていければと思っておりますので、あまり肩ひじ張らずにざっくばらんに皆さんと対話できればと思っております。今日はどうぞよろしく申し上げます。

【女性】 昔から三津にいましたが、商店街通りには 22 年前に参りました。三津浜のよいところっていうのは、まず駅に近く、空港に近く、港に近くすごく便利なところで、周りの人たちは毎日にここにしております。毎日楽しく過ごすことができるのが三津浜だと思っております。いわゆる人情味厚いというか、こないだもイベントがありましたが、イベントとかにもいろいろ参加させていただいて楽しくやっております。皆さんに三津に来て住んでもらいたいと思っております。

【男性】 三津は非常に年寄りと子どもに優しい、安心なまち。1 平方キロの広さの中で歩いて端から端まで 10 分、こういうまちの中に公共施設が、保育園、小学校、中学校、警察、西消防署、支所、公民館、図書館、それから銀行が 2 つ、郵便局が 3 つ、病院が 3 つ、歯医者は 4 つ、本当にどこ行っても全部そろいます。大きなショッピングセンターが 2 つ、こういうまちは他にはないんじゃないかなと思っております。先ほど申しましたように、非常に交通の便もよろしゅうございます。まちの中が真っすぐ向こうまで見える、直線的、碁盤の目のようになっているので、防犯的には、この西地区の中では一番安心なところでございます。窃盗犯も一番少ないところでございます。反対に道は狭いので、大きな車が通りません。大きな車が通らないから、子どももお年寄りも本当に楽なんです。坂道がないので、押し車、乳母車、どこにでも行くことができます。こういうような素晴らしいまちはほかにはないかなと思っております。ただ、防災上には非常に欠陥があります。防災の方、また言われると思いますが、本当に楽しいまちだと思っております。

【女性】 小学校の校歌に「波うらかな三津が浜」と歌われています。海あり、港あり、おいしいお魚が食べられて、古い町並みも残っております。そして人情豊かな人たちが住んでおります。本日は落成したばかりのこの地域交流センターに市長さんをお迎えして、タウンミーティングが行えますことを大変うれしく思っております。これからはここを拠点に大いに地域活動を繰り広げていきたいと思っております。さて、子規が愛した三津浜、子規は俳句を学びに大原其戒を訪ねて、ここ三津浜にたびたび訪れました。子規が上京する時も、また故郷に帰ってくる時もここ三津浜から出発し、お迎えしました。ということで、松山への第一歩はこの三津浜からというように考えています。また昔を振り返ってみますと、坊っちゃん列車に夏目漱石が乗り、子規はたびたびおいしい魚を求めて澁々園にやってきました。現存するものとしては、年中無休、無料で無事故の渡し船がございます。石崎汽船本社ビルとか三津浜図書館、伊予節に歌われた三津の朝市、そして魚市場。また、神社仏閣いっぱいございまして、子どもたちのよい遊び場にもなっております。特に祭りは地域住民あげての大切な行事となっております。そして、お茶屋井戸や船手組 400 戸の水を賄ったといわれる辻井戸、様々なものが残っております。お魚のほかに味噌や醤油など、とってもおいしいものがたくさんあります。小学校では老舗のご主人直伝でおいしい味噌を作っております。三津浜焼きの歴史も古く、1 銭で食べれたということで「1 銭洋食」と呼ばれたのがルーツです。また、正岡子規も大好きだったという母八重さんの作る松山鮓、それを夏目漱石にも食べていただいたという話が残っています。現在子育てをしているお母さん方にもこの松山鮓をぜひ食べていただいて、作っていただいて、おふくろの味としてお子さんに伝えていってほしいと願っています。また、三津浜には幼稚園、小学校中学校というふうにすべての教育機関がそろっております。学校 5 日制が導入されるときには、モデル地区ともなりました。古くをさかのぼれば、愛媛女子師範学校、付属小学校、幼稚園、というふうにまさに教育のまちでした。文武両道が根付いていて、今も柔道、剣道、空手、サッカーとか社会体育も盛んに行われております。ボランティア活動も非常に熱心で、花火大会、そしてクリーン活動と小中学生は大いに地域で活躍をしてくれています。しかしながら近年、人口がどんどん減少し産業も衰退してまいりました。そこで、昨年発足したまちづくり協議会は何とかしようというふうに動いております。ご縁があ

ってこの三津浜に住む者同士、また興味を持って下さる方皆さんと力を合わせて、この三津浜を幸せで笑顔あふれるまちにしていきたいと思っております。最後に、今日市長さんはじめ行政の皆さんの後押しをあと少しいただいて、さらに三津浜がよくなるように私たちも努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【市長】 もう今聞いていただいたので、皆さん共通認識ができたかと思うのですが、三津は魅力いっぱいのところだと。本当にいろんな要素がありますね。

【男性】 魅力というのはその魅力をどう活かして今後のまちの発展に活かすかという観点から少し考えるんですけど、私は転勤者で10年ほど前にこちらへ帰って、ずっと若いうちから転勤ばかり重ねておまして嬉々として10年前に帰ってきたんですけど、三津のまち考えてみると、昔住吉町が非常に発展してた。それが今、ああいう状態になっている。スーパーに行きますと、スーパーは車でくるくるっと短い距離で回れる、それが町だとしたら1キロ歩かないかん。それが大変つらいという話がある。だとしたらですね、どこかに小さな屋台ぐらゐの大きさの店をこしらえて、昔商売なされた方がそこへ店出されたらどうかと、店が1カ所に集まる。スーパーが来て必ずしも発展しないのは、スーパーやっとなる方には失礼なんですけど、店を貸してるという感じなんです。そうじゃなしにそれぞれ小さな店がいっぱいあるんだと。今東北で発展しとるもんは屋台形式のやつが非常に皆さん賑わつとる。そういう場所を、何らかの形で小さく区切って出せるような場所ができて、昔商売なされた方がそこへまず出してみよう。ベンチャー企業みたいな話ですけどもベンチャーの店を出してみよう、そこからはやったらどどん別々の自分の大きなお店をこしらえられるように、そういう形式で少し種まきができないか、店のベンチャー、それができないかと思っております。三津の魅力としてはですね、昔、浜の関係に大変大きなお店屋さんがいっぱい、卸屋さんがあって、その卸屋さんは、ご自身で大変おいしいものを食べたいという魅力があって、そして今度はそのおいしいものをみんなに出してやろうと、うまくないものはあんまり出したくない、そういう心意気があったように思います。そういう店屋さんができれば、大変いいんじゃないかな。こないだテレビで見たりまして、三津の味がよくなかったら売れんぞな、味を落としたり売れんようになるけんというておられる方がおられて大変嬉しかったです。三津の舌はま

だ生きとる。他の地区よりも舌が肥えてまして、厳しいところがあって、そういうものを提供できれば三津のまちはどんどんもういっぺん回復してくるんじゃないかな。転勤してきてそう思います。

【市長】 今、おっしゃった方向は、まさにこれから私もしたいと思ってますし、国が厚生労働省を中心に唱えてることと全く同じなんです。今、国の方でもよく言われているのが「ぴんぴんころり」って、聞かれたことがあると思いますけど、日ごろぴんぴんしてて亡くなる時にはころりと逝きましょう、ということなんですけども、これをよく言われてます。単なる寿命、単なる長寿じゃなくて健康寿命を延ばしましょうっていうことが国でも言われてるし私もそうありたいと思ってます。そのためには、国民の平均歩数、歩く数を 1,000 歩増やすことができれば、糖尿病の発症を約 3 パーセント減少させることができると言われています。ですからこれからはできるだけ歩いていただこう。もしその脳卒中とかになられても、家に閉じこもりになるんじゃなくて、できるだけ歩いていっていただいて回復をしていただこうっていうのが厚労省の考え方でもあります。ただただ歩けというのではちょっとしんどいので、歩きやすいまちづくりで、歩きたくなるような魅力を作らなくっちゃいけないって言われているところです。ですので、大型ショッピングセンターもいいんですけど、もうちょっとちっちゃいお店の存在も大事にしていきましょう。大きい冷蔵庫より小さい冷蔵庫っていう言い方するんですけど、三津ではまだあると思いますけども、「今日は何が安いん？」とか「今日は何が美味しいん？」っていう大きい冷蔵庫じゃなくて小さい冷蔵庫の考え方をしましょう。できるだけみんなが歩くようなまちづくりをしていきましょうっていう考え方もあります。私もそういうまちにしていきたいと思ってますんでご意見と同じところ、共通なところがあります。

【男性】 今日魚市のことについてお聞きしたい。今の魚市は塀に囲まれて守衛さんがおって、地元の人には馴染みの薄い魚市になっとる。どうかああいうのをとっばらって、毎日自由に出入りできる生鮮食品も入れ、パン屋さんもあり、惣菜屋さんもあり、まちの魚屋さん、それも複数入れて「これ、3 枚におろして」「はいよ」っていうような魚屋さんを沢山いれて欲しい。観光客云々と言よりますけど、私は地元の人に愛される魚市になれば観光客は必ず後からついてくると思っております。三津も「子規が愛したまち、三津浜」ということで活性化をし

ております。子規さんも松山に帰れば三津の澁々園で久しい友と必ず酒を酌み交わしたと言われております。残念ながら海の中に今は沈んでいますけど、澁々園の中に潮湯もあったと言われております。だから、潮湯そして澁々園これを魚市の中に作って欲しい。私は魚市の中に澁々園をつくるのにもどこでもいいとは思ってません。何でかという、三津は魚市が一番景色がいい、赤灯台、四十島、興居島、穏やかな瀬戸の海、大小の船が行き交います。また夕日が非常にきれいです。こういうところでおいしい魚を食べ、酒でも飲んだらこれも最高じゃないか。私は思っております。

さて、魚市の中でどこに澁々園つくる場所があるんだろうかと思っても、今の冷凍庫、その奥の最終処理場辺りがいいんだけど、これも魚市の今大切な施設になっています。それが無理ならば、それに代わる景色のいい場所につくって欲しいと思います。

魚市は電車で来るならば商店街を通り三津の渡しを寄り道すればそれを通って魚市に入りますけど、私は車の人は魚市を無料駐車場にしてもらいたい。朝は車が多いでしょうけどあとは車がいよいよ入ってないと思うんです。あそこをどうしても無料駐車場にしてもらいたい。それと正岡子規は先生が大原其戎、これ三津の人です。正岡子規が近代俳句のもとをつくったとなれば三津はその発祥の地じゃないか、近代俳句の発祥の地ではないかと私は思っております。どうか市長さんのお考えを。

【市長】 はい、今日中学生の方もこられてるんで中学生にもわかりやすく。市場っていうのは、国の政策として卸売を目的に建設をされたものですから市場の取引ルール上、一般消費者に対する小売行為はできないというふうになってたんですね。ですから、一般の人があまり入れなかった。卸売市場法っていう法律があるんですけども、市場に入って施設を利用できる方は卸売の業者さんで仲卸の業者さん、飲食店、鮮魚店、厳しく制限されて一般の方は入場できない、そういう状況があったからさっき言われたように「守衛さんがおってなんか入りにくい」というお話があったんですね。

【産業政策課長】 魚市場、水産市場のルールというのを基本的に守っていただくということなんですけれども、今ご意見の中にありました澁々園あるいは潮湯こういったものにつきましては、今の三津のまちづくり協議会の方と、活性化と

ということで協議をさせていただいておりますので、その中でまたいろいろ議論をし、事業の実施に向けて、県、国とも協議をしていかないといけないと思いますので、いい方法で最終的な方向性を見出していきたいと思います。ただ、国にしても県にしても、いろいろな協議の中で、やはりこちらとしては地元の意見を尊重するということが第一に考えますので、今も申しましたようにもう一度十分に、よく協議をさせていただいて進めていきたいと思っております。それともう一点、無料駐車場のお話なんですけど、卸売市場法の中で、確かに卸売の競りをやってる時間以外は広い駐車場空いておりますが、これもいろいろ制限がありまして一般の市民の方に無料で開放するということについては、やはり制限があります。今の法律の中ではちょっとできないと考えておりますのでよろしくご理解をお願いしたいと思います。

【市長】 三津の朝市、私が選挙の時から公約を掲げて参りました。三津の朝市を例えば下関の唐戸市場のように地元の人でも楽しめる、観光の人でも楽しめるようなところにしていきたい。道後温泉、松山城だけじゃなく三津の朝市をもう一つ魅力としてプラスできたら、この一念はぶれておりません。ですから動き出しています。今年度は、およそ 500 万円の予算でいろいろな調査を行いながら三津の朝市の活性化の基本計画を立てる年が今年度です。今どんなところとお話をするかという愛媛県とはもちろん話をしております。愛媛県の水産課、管理課、港湾海岸課、松山市役所の中で言いますと 19 課にまたがります、話をしよります。三津浜地区のまちづくり協議会、話してます。水産市場の運営協議会、話してます。主婦層の方にも話をしてます。近畿圏の旅行会社にもお話をしています。そして 10 月には三津地区でできるだけ多くの方にアンケートをする予定になっています。今まさに動きだしたところで、とにかく行政が主体になってつくっていくんじゃない。皆さんの声をいただきながら「こんなんがいいですね」という意見を集約していきたいと思っておりますのでどんどんいろんな場所で皆さんご意見をいただいたらと思います。で、澁々園、以前潮湯ですかね、温泉が出てるわけじゃなくて海水を沸かしているお風呂だったと聞いております。私、前の仕事で聞いたことあるのが海水のお風呂は冬だとすごく湯冷めがしにくい、あつたまりやすいと聞いてます。夏は皮膚病ですとかあせもの方にいいと聞いてますので、海水を沸かしたお風呂、天然温泉でなくても海水を沸かしたお風呂ってのもいいなって思

ってます。今日ちょうど 6 時くらいに三津に入ってきたんですけどちょうどいい夕日が出てました。ですので、夕日見ながらお風呂入れたらええやろな。朝、魚市で働く人たち冬なんか寒いですから、そのお風呂に入れたら温まってええやろなって思っております。やっぱりこれが昔のように戦後の世の中でどんどんどんどん税金も増える、日本全体が豊かになっとった時代やったら税金もいっぱい入ってきますからお金も使える、そういう時代だったらいんですけど、今そういう時代ではないんで、何をつくっていくのかをいろいろ精査をしなくちゃいけないのでこれを皆さんと協議をしながら、いいものつくっていきたいと思います。

【男性】 今の件に関して、今の市場の塀の内側に入る必要は全くない。塀の外側で、小売り屋さんが店出せばいい。ちょっと簡単な店ですればいい。それがどんどんはやってくればどんどん固定化すればいいんであって、今のお話だと法律があって塀の中は触れんのだという、塀の外側に今ものすごい空地があるじゃないですか。あそこへ少しずつ 10 軒でも 20 軒でも小売り屋さんしたい人が小売りのお魚屋さん出せばいい。

【市長】 ちょっと誤解があります。塀の中が一切触れないことではないんです。今市場の中には関連店舗棟があるんですけど、あそこは一般の方も利用できる場所ですので塀の中が一切利用できない、触れないということではないんです。ですので敷地のことも考えてどこにつくっていくのかも含めて考えていきますので、一切触れないとかいう、そんな硬直化した話ではないので大丈夫です。

【男性】 タウンミーティングをしていただきまして市の行政と市民との関わりが深くなったように思っております。よろしく申し上げます。私達高齢者は以前から会員相互の親睦を図るとともに健康増進に寄与することを目的としてグラウンドゴルフを行っております。現在、三津浜地区にはその会場がなく、味生地区に行って毎週グラウンドゴルフを行っております。このたび建設されたこの交流センターにグラウンドができると聞いておるんでございますけど、そのグラウンドを使用させていただければ地域的にも三津の中心地ではありますし、もっと多くの高齢者が参加しやすいと思われれます。三津地区のまちづくり協議会を中心に、市当局の指導を得て推進されております。現在はいろいろなイベントも実施されておりました、他地域から多くの方が視察に見えられております。私たちグラウンドゴルフを通じて会員相互の親睦と健康増進に努めて会員相互で連

携し合い、その輪を広げて明るいまちづくりを目指しております。交流センターのグラウンドを利用させていただければ会員も増え、高齢者の健康増進も図れることによって医療費の軽減にもつながるのではないかと。報道関係なんかでも医療費が少なくなったということは高齢者が元気になったと、医者行かんということで、そこらは手前味噌でございますけど、健康増進に努め、会員相互で連携し合ってその輪を広げていったら、できるのではないかと思う次第でございます。何とぞ、交流センターのこのグラウンドを利用させていただくようにご高配をお願いしたいと思います。よろしくをお願いしたいと思います。

【市長】 交流センターですけども、3月11日に東日本大震災が起こりまして、途中は資材の調達が難しくなりました。ひょっとしたら遅れるかもしれませんが、みたいなことがあったんですけども、何とか先日オープンすることができました。今、グラウンドを整備をしておりますけど、12月中を目途にグラウンドができる予定になっております。結論から言うとできると思います。グラウンドゴルフに使っていただけたらと思います。整備後のグラウンドは駐車場はフェンスで仕切る計画がありますのでより使いやすくなると思います。また、お年を召した人生の先輩方も楽しみにされとるし、放課後の子どもたちも楽しみにしとる場所なのでおじいちゃんや子ども達がけんかしたりしないように、地元でルールづくりをしていただけたらと思います。

【市民部長】 整備後のグラウンドの広さ約1,300平米、秋口になったら植栽も考えてます。今の桜に加えて花見ができるような広場、地元の方と協議させていただいてそういう整備になっております。もう一つは、我々がまちづくり協議会に投げさせていただいてとるんですけども、今市長の公約で芝生広場の拡充ということで検討させていただいてるんですけども、この建物には中水といたしまして雨水を利用する施設がありまして、芝生化した場合にちょうど利用できる水があります。ただ、問題は芝生広場が欲しいという地元の声とともにその維持管理をしていただけないとなかなか行政ではみれないもんですから、そのあたり提案させていただいておりますので皆さんに議論していただいて、芝生化になりますと子どもたちがはだしで走り回れる、グラウンドゴルフなんかでもきちんと芝生をカットしておくともたまた競技が楽しくなるということ聞いておりますので、そのあたり皆様方で相談していただけたらと思います。

【男性】 グラウンドゴルフ今やりよるのは、高齢者用で朝が早いんで、午前中だけなんです。だから子どもとのなにはないと思います。

【市長】 わかりました。はい。芝生化なんですけど、皆さん最初私が芝生化言い出した時、「え、芝生」って思われたんです。2カ月くらいで芝生ができますので、梅雨時期、5月末に植えまして今回芝生化できたのが松山の坂本幼稚園、石井保育所、山越保育所でできたんですけども、どんなもんかなと思われる方、家にインターネット、パソコンできるんやったら「松山、坂本幼稚園、芝生化」って入れてもらったら、どんなふうに芝生ができていったか見られますので見ていただいたら安心していただけたらと思います。どういうところが芝生化いいかと言いますと、まず熱中症の対策ができます。芝生ですとあんまり熱上がりません。砂ぼこり、土のとこの周りの家って「砂ぼこりで洗濯物困るんよ」って話し出てきてます。ですので砂ぼこり対策になる。そして、子どもたちが裸足で遊ぶことができ、子どもたちは遊ぶ時にコミュニケーション能力を向上しているんですね。ちゃんと自分の気持ちを伝えるということができるよう子どもが遊ぶ時になってるんです。子どものコミュニケーション能力の向上につながる。運動能力の向上につながる。今の子って昔の人と違って顔からこけてしまう。手がつかない子もおりますから、運動能力の向上につながる。もう一ついいのが芝生化というのは地元の人と一緒に植えてもらうんです、保育園、幼稚園の場合特に。芝生を植えるとその芝生に興味がわきますね。「伸びたろか?」「大きなりよろか?」って興味がわく。そしたらそこの保育所や幼稚園子どもたちに対しての興味がわく、関心がわく、そうなる地域で子どもたちを育てるっていう雰囲気ができるんです。これつながりという面でとっても大事なことですけども、私のやってる芝生化っていうのは地域の方と一緒に地域の方にこう植えていただくというものです。この趣旨賛同いただけたら、皆さんで植えていただいて、二倍ぐらいの速度で延びる芝生化、鳥取方式ってやり方ですので、思ってるほどは手間とかお金かからないやり方ですので、もしご賛同いただけるようでしたらこちらでの芝生化も考えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

【女性】 交流センターができましたはや、私たちは2回ほど使わせていただきました。新しいところで使い心地はいいんですが、料金の問題がちょっと痛手をくっております。以前は40年前の設定の料金だったということで今、3倍くらい

になっております、私たちが払うお金を。できましたらそれを少なくしてもらおう
というか、一つの案は午前、午後、夜、と区切ってるのを 1 時間単位にしていた
だけるとちょっと安くなるという私たちの勘定になるんで、下げられない場合はそ
ういうことを考慮して欲しいと思います。それから、公民館の使用なんです、
今治で聞くところによりますと、公民館の利用は無料で貸し出しをしておるそう
です。それは地域によるかもわかりませんが。それを無料で貸すとあとはどうい
うことをするかと言うと、ボランティア活動ならびにそこで行う行事には必ず参
加していただくと無料でっていうことで聞いておりますので、そちらも松山市も
財政が許すようだったら考えて欲しいと思います。もう一つすみません。先ほど
ご意見がありましたように、商店街が閑散としておりますが、何か所か借り上げ
していただいてみんなが集えるスペースです、そういうところを作っていただくと、
音楽の練習とかこないだもイベントがございましたがイベントのスペースで
使えるようになるのではないかと考えております。以上です。よろしくお願いま
します。

【市長】 はい。公民館の使用ですね、前中島のセンターの使用があって、あれ
結局どうしたんでしたかね。

【市民部長】 確かに 40 年前は非常に安くて今度は上がったんですけども、その
40 年前つくった時の利用料金の設定の仕方というのは、まず、行政が一定の負担
するんですけども住民の方にも若干負担していただく、その時にランニングコス
トで計算、割り出しております。ですから、40 年前の施設と現在の施設になると
いろんなことで上がっておりますので、それはこの交流センターだけが高いんで
はなく最近つくってる施設と同じ水準にあわせまして、誠に心苦しかったんで
すけどそういう料金に設定させていただいて条例案を議会で上程して議決して
いただいたということが一つでございます。もう一つ利用区分についてですけれ
ども、確かに安くするためには短くしたいということがあるんですけど、やはりこ
の施設はのびのび使っていたきたいところがありますし、1 時間単位の管理とい
うのが非常に難しいものですから、そういう点で、やはりゆったり使っていた
くという形で今の利用区分に分けさせていただいております。料金についてもそ
ういう形で公民館もこの交流センターも同じような考え方でいっておりますので、
料金については今の料金体系でご理解いただいたらと思います。

【女性】 公民館は1時間単位なんですよ。

【市民部長】 利用形態なんですけど、厚生福祉センターの時と同じ利用なんですけども、いろんな伝統とか文化とか習い事とかずっと今までの利用形態そのままですね、実態にあわせて今回もさせていただきました。今の料金の件については公民館もこれも同じだということでもさせていただきました。

【市長】 部長勉強させてください。1時間当たりの使用になるとどういうところが難しい？

【市民部長】 ここは支所で管理させていただいてんですけど、支所の職員というのは実際の事務をしながらこの管理をやっとるもんですから、やっぱり事前に申し込みいただいて、その時の管理ができるのが現在の限界ということで従来の管理形態を援用させていただきました。

【市長】 なるほど、わかりました。いったん持ち帰らせてもらいましょう。

【男性】 立派な地域交流センターをつくっていただいてありがとうございます。これから大いに利用させていただきます。私はもう高齢になったんですけど、グラウンドゴルフを三津大可賀公園でやっとるんですが、三津浜には子どもの遊び場とか広いソフトボールしたりサッカーしたりする広場全くないです。私は月曜日から金曜日までグラウンドゴルフを午前中やらせてもらったりします。草ひきもしたり剪定もしたりしとるんですが、残念ながら駐車場がないんですね。市内見て回っても公園の中に駐車場があるというのは全くないと思います。郊外へ行けばそういうところにもいくらかもあるんですけど、市内にはないんです。それで子どもがお母さんとかお父さんがきて道路へとめとる、パトカーが来て、前でしたらマイクで「ここ駐車禁止やからのけなさい」ということで移動しよったんですけど最近はまだそろっと来てですね、時間がきたらぺたっと貼って帰るんです。私らグラウンドゴルフしよる仲間もそういう光景を再々見とるんです。それで私の提案は、三津大可賀公園の北側に8メートル道路があるんです。その両サイドに3メートルの歩道があるんです。そこを私も1回トラック持って行ってみたら、あそこは郵便の車とかダンプが通るんですけど、結構利用ができます。ですから、公園の中へ切り開いて駐車場すると費用が莫大かかると思うんですけど、歩道を半分くらい、のけるんじゃなしに、白線を引いて、そしてそこへとめもらって、これを駐車に関しては行政、道路管理、警察なりに許可とらないか

んと思うんです。そしたら公園利用者も、安心してそこで子どもさんらを遊ばせるんじゃないかと。1回現地を見てもらって、そういう方向で検討していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

【市長】 私も選挙の時に、あのあたり歩いて回りましたんでよく覚えております。実は、あそこに駐車場がないんですよ。松山総合公園とか中央公園なんかには駐車場があります。それはその大規模であるからということであるんですけども、三津の大可賀公園の場合は、近隣公園っていう言い方をしまして、公園から250メートルから500メートルの範囲に住まわれてる近隣の方を利用対象にしてるので基本的に駐車場はないということなんです。でも、今言われたように広い道があって、白線引いたら市役所のそばにもありますけども、道に線引っぱってとめられるようになってますよね、1時間単位ですかね。そういうやり方もあるかなと思いますのでこれは警察の方に早速検討を持ち掛けてみようと思います。逆に近隣公園の難しさがですね、大型公園みたいにあそこ確かソフトボールができるんですかね。すごい花の世話をしてくれとるところで確か市長賞とられたと思いますけれど、人気の公園になっているので、もともと近隣の人に楽しんでもらおうと思ってた公園なんですけど人気が出てきてるもんやからみんな車で来るんですよ。車で来てもらうのもそりゃありがたいんですけども、よその人がどんどんどんどん使うようになったらもともと地元の人公園ってしとったのにその辺の人とのこのバランスはどうなるんかみたいなこともあって、駐車場をつくらんとってくれっていう人も逆におるくらいなんですよ。ですので確かに道路に白線を引っぱってというのは一つの方法だと思いますのでこれは警察の方とお話しをしてみたいと思います。

【男性】 ちょっと違うかもわからんですけど、伊予鉄の三津駅のロータリーのところにですね、空き地があったんです。それで今年の5月にですね、蘭の花を35、その季節の花を植えたんです。それでちょっと問題になるのがお水なんですけど、近くのお家の水道使わせていただいて花に水をやっとなです、月曜日と木曜日。三津の社協と婦人会とで2人ずつでチーム組んでやっとなですけど、ホースが使えないんです。その水道の蛇口が。なんか水圧の関係で使えないんで、いつもやるとき婦人会の方なんかはお年寄りですし、一人社協の人もかなり年寄りがおりますんで、バケツにしゃくを持ってやっとなか、ジョロに水を入れてま

いとるんです。そうしたらもう往復で 20 回くらいはかかるんです。他のところも水やりよったら。これは大変だということでぜひ地域の人からこれはホースを使わすようにしてくれないかとお願いがあったんですけど、何とかできないでしょうか、それをお願いします。

【市長】 あそこって確か市道ですよ。はい。

【都市政策課長】 都市整備部です。今のご質問なんですけど、三津駅のロータリーは松山市道になっております。現在市道の維持管理についてなんですけど、街路樹とか植栽につきましては松山市におきましては水道施設、上水を使ったかん水は行っておりません。夏場の渇水期といいますか夏場の日照りが続いている中で、街路樹にかん水等行うわけですけれど、それらの水につきましても下水の処理水を使いながら行っている状況でございますので、新たに上水道を設置することにつきましてはちょっと難しいと思いますので、皆さんのボランティアの力でやっていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

【市長】 これ、現状聞くとご高齢の方がバケツで運ぶってというのはなかなか大変だなと思いますね。確かに市が持っているところでこういう水道設備を備えたところはないんですけども、ちょっとこれは持ち帰らせてください。お世話してくださってるので、できれば、もちろん費用かかる話だとは思いますが。例えば、三津でやると、「うちでもやってや」という話に当然なるのでこれ、三津でやってしまうと広がる話しになるので、三津でやったらその、広げなくてはいけないっていうのが正確なんでしょうけど、三津だけって話にならないと思いますんでそのあたりも検討させていただいたらと思います。よろしくお願します。

【男性（中学生）】 僕の家近くに細い道があるんですが、そこのどぶがすごく汚くて、においもあって困ってるなあということなんですけど、生活排水とか下水とか関係あるのかと思って、それをお尋ねします。

【市長】 立派ですね。中学生でちゃんと身の回りのことについて意識しているというのは立派なことだと思います。

【都市政策課長】 今の件につきまして、市に具体的な場所を言っていただければ現場を見させていただきます。

【男性】 その件について、私、散歩するときに中学校の横の下水のところ通るんですけど、いつもにおいがして、検討調査してください。今言われるようにあ

あいうところで中学校あるのかなというくらい、本当にいつもにお高いです。

【市長】 私もこの立場に立ってみて思うことなんですけど、どうぞ遠慮なく相談してみてください。きっとやってくれんとか思うと誤解を生じるというか、よく言うんですけど「話せば理解、話さなければ誤解」という部分がありますんで、言っていたら結構動ける部分もありますので、言っていたらと思います。今、下水道のことで言いますと、松山市は下水道の計画を変更した経緯があります。平成 6 年に、平成 16 年の下水道の整備の計画を立てた。それが年間 160 億下水道の整備にかかるという計画だったんで、さっきもちらつと言いましたけれど、今、国の借金というと 1000 兆円弱あります。そうすると、県や市に回ってくるお金が少なくなりますよね、昔の税収がどんどん上がってくる世の中だったらよかったんですけど、今はそうもいかない、財政はもうこれ以上膨らみようがないですよ。松山市の財政は中四国の中では 2 番目にいいといわれています。1 番は徳島県の阿南市、発光ダイオード、LED の大きい会社がありますからそこが 1 番、松山が 2 番と言われて、中四国の中でもいいといわれている松山市なんですけど、お金が出ていくほうでいうと、民生費という福祉にかかるお金が一番大きなウエートを占めるんですけど 40 パーセント、この民生費が 1 年で 50 億円増えてます。およそ 50 億円、よく生活保護費と聞かれると思うんですけど、生活保護費はおよそ 20 億円増えてるんです。限られた、これ以上膨らまんだらうという財政を預かっておりまして、20 億円生活保護費が増えたんだったら、どこかで 20 億円削らないといけない。借金ばんばんしてやっていきよったら、その時はいいかもしれません。市長として皆さんが言われること「はいはいいいですよ」「いいですよ」いうてばんばん作ったらその時は人気がいいかもしれません。でもそれは将来の子や孫につけを残すことに他ならない、ですからどこかで増えたお金があるんだったら、どこかで削らなければならない。この見ながらというやり方なんで、皆さんにさっきの水道のことだって「はいいいですよ」と言ってさしあげたいんですけど、そういう状況ではない時代なんだということをご理解いただけたらと思います。でも、できませんというのは簡単であって、知恵と工夫を絞っていきたいと思ってますので、ちょっと持ち帰らせていただくこともありますけれど、下水道の話するとそういうことになります。でも、言ってください、言っていたら対応できることも大いにありますので、お願いします。

【女性（中学生）】 5カ月前に東日本大震災で津波が来たんですけど、三津地区は土地が低いので津波がきたら、水がきたら避難がしづらいので、堤防か何か作ってもらえないかなと考えてるんですけど。

【消防総務課長】 率直なご意見ありがとうございます。津波と高潮というのがあります。満潮時に台風によって気圧が下がると潮が高くなって、平成3年に台風19号が来たときにも、この三津地区も大変な被害がでました。その高潮の高さが2メートル75センチだったんです。それを踏まえて地域防災計画を見直しまして、今防災マップに記載しているのが2メートル80センチを基準にしまして高潮の浸水区域というのを、防災マップの三津地区にも示しています。最大の高潮の高さが2メートル80センチですが、南海地震を想定した津波の最高高さは2メートル40センチなんです。東日本の震災を受けて、国とか県とかが被害想定、津波の想定、また東海地震、東南海地震、南海地震の3連動を想定した津波の高さとかを見直していますので、今後、数字が上がっていくと思うんですが、今の段階では、2メートル40センチが5時間50分後に到達する高さです。第1波が2時間10分後、おおむね80センチです。第2波になると引き込みが入りますので50センチになってこれが約3時間後で、5時間50分後に最高が2メートル40センチの津波が来るという想定になっておりますので、三津浜地区が標高が一番低いところが1メートル80センチとなっております。ですから2メートル40センチの津波が来ると浸かってしまう、ですから1メートル80センチのところは防災マップにも浸水区域で入ってますから、3階以上の階とか高いところに避難していただくというふうに今のところはなっております。今後見直しがかかればその都度皆さんにお知らせしたいと考えております。

【市長】 今、国のほうでも津波対策見直しをしているところです。県でも見直しをします。市でももちろん国、県の指針が出たら見直しをしなければなりません。皆さんのお気持ちもわかるんですよ。早くしてくれ、早くしてくれというのあるんですけど、これ、国も改めて県も改めて市も改めてということになると3つ変わることになる、いざ緊急避難というときにどれどれどれと混乱してしまいます。ですからこれは国や県にらみながら一番いい形で作っていきたいと思っています。私自身も3月11日の東日本大震災の時には東京におりましたので震度5の揺れを感じました。その時は羽田空港で地べたに寝る形になったんですけど

も、そのとき東京でもお亡くなりになった方もいらっしゃったので命があっただけでもありがたいと思ってるんですけど、ですの思いはひとしおのものがあります。宮城県の南三陸町、松山市が保健師を送り続けたところにも行ってきました。町長さんから大事なお話をいろいろ聞いておりますので、もちろん備える気持ちは十分にありますので、また的確に皆さんにお伝えしていきたいと思えます。もう一つ皆さんこの防災マップ 3 月にお配りしたんですけど、見たよという方、じっくり見たよという方、2 方の方がいらっしゃると思いますが、まず、見たよという方いらっしゃいます。(挙手) じっくり見たよという方いらっしゃいます。

(挙手) これをぜひ皆さんじっくり見てください。50 ページに三津は載ってるんですけども、これに細かく載ってますからぜひ見ていただきたいと思えます。地図だけじゃなくてこういう備えしていただきたいというのも書いてますので、実はこれはかなり細かく作ってまして、黄色い蛍光色のところありますが、以前はもっと派手かましく、派手かましいほうがわかりやすいですから。でも目の不自由な方からすると派手かましい色だと分かりにくいんだそうです。ですから目の不自由な方にとってもわかりやすい防災マップを作ったものですので、入魂の作ですからぜひとも皆さん家に帰ったらじっくり見ていただきたいと思えます。一番象徴的なのは、最初のページにあるんですけど、松山市民何らかの災害にあうだろうと思っている人は 75 パーセントいるんですけど、でも、対策してない人は 80 パーセントいるんです。75 パーセントの人が災害あるだろうと思ってるのに、80 パーセントの人が備えてないんですよ。ですのぜひとも皆さんこの防災マップ、税金で作ってるんですよ、皆さんのお金ですよ、じっくりとみていただいて、備えをしていただいたらと思えます。

【女性(中学生)】 私たちの世代がゆとり最後だと思うんですけど、教科書が大きくなって、先輩の世代は教科書が小さかったから机の幅が小さくても入ったんですけど、6 時間とか 5 時間授業になって、家庭科とか美術とか体育とかいう教科はすごい分厚いんですよ、だから毎回毎回授業終わるたびにロッカーに戻してまた出してというのがすごく面倒くさくて、次の世代にとってはそれが残ったら面倒くさいかなあと思ってる、それを広げてもらったらと思えます。

【市長】 書棚を広げる。なるほど。

【保健体育課長】 昔は B サイズだったんですけど、何年前に文部科学省が見

直しをしまして、Aサイズの教科書になってきました。そのために机については、すべての小中学校の机を入れ替えました。ただ、先ほど言われた教室の後ろにある戸棚については、大規模改修時に対応してたと思うんですが、改修が終わってないところについては何とか工夫をしていただいて、大規模改修まで待っていただいたらと思っております。

【男性】 先ほど市長が阿南市のLED等の話が出ましたね。私も防犯関係をやっておりますし、市長も松山市防犯協会の会長でもあります。そこで、岡本課長にお聞きします。今現在、松山市の防犯灯は全部蛍光灯ですね、これをLEDの防犯灯に替えようという各地区の運動があるわけです。と申しますのが1灯あたり年間3,000円するそうですね。ですからそれを少しでも、最初は大変でしょうこれは、替えるのは。そこで岡本課長、今10校区回られて、このLEDの意見が出たのは三津が初めてか、それとも今までに出たのか、もし三津が最初でしたらこれから今後、タウンミーティングでこういう話も出ると思いますので、一つ調べておいていただいたらと思います。

【市長】 LEDのことについては担当から声が上がっております。松山市は防犯灯は3万灯以上あるんですね、LEDのメリットは把握してます、寿命が長いとか、環境に優しいとか、いわゆる次世代型の照明と言われているんですけども、今だと金額が莫大になってしまうのでちょっと今待っているところ、もうちょっと値段が落ちてこないかなって待っているところです。でも効果は把握したいので、モデル事業として、番町地区と北条地区の一部では試験的にLEDの防犯灯を設置して調査研究を行ってしますので、その効果を見ながら、値段も落ちてこないかというところもありますので、その辺にらみながらやっていきたいと思っています。質問は初めてです。LEDのことが出たのは初めてです。

【女性】 渡し船の時間ですけど、せっかく花火を見に来てくださる方がたくさんいらっしゃるのに、渡し船がいつものとおり7時で終わりなんです。現場に行ったらこの渡し船は7時で終わりですか聞いたら、はいそうですと言われたんです。8時から始まるので、7時といえば一番人が行きかうときなんですけど、何日か前に札がぶらさげてあって、7時で終わりですっていうのはあるんですけど、昔は10時半ころまで動きよったんですけど、お金はいるかもしれませんが、1年に1回のことだし、たくさんの方がいらっしゃるの、何とか時間ならないものかと

と思いますが、いかがでしょう。

【市長】 今日担当が来ておりませんので、持ち帰らせてください。必ず返答いたします。ちょっと教えてください。以前は夜 10 時半くらいまで運行していたこともあるんですか。

【女性】 はい。

【市長】 ああ、あったんですか。たぶん 7 時までになったのは何らかの理由があったと思うんですよね、時間とか制度が変わるときには必ず理由があるものですから、なんか理由があったと思うんです、ちょっと調べさせてください。できるだけ花火の時とか親切な対応をしましょうって言って、松山総合公園がありますね、あそこで、足の悪い方がどんどん花火の音はするんやけど、足が悪いけん見れんのよねという話を聞いてました。総合公園の車夜入れなくしてますけど、かぎを開けて花火の日だけは上にあげたらどうですか、車を上げてあげたらどうですかと担当課に言ったんですけれども結局かぎは開けなかったんです。例年のこと調べますと、上の駐車場にビニールシート広げて家族連れが安全に花火を見る光景があったんですね、それを私が言ったことでかぎを開けてしまうと車が入り込んでくるから子どもたちが安全に見ることができないということで今年もかぎは閉めたままという方策をとらせていただきました。でも、今まで総合公園のてっぺんは草が伸び放題になって花火を見るには具合が悪かったんで、花火見やすいように余分な木、草は切らせていただいて、そして建物の上にも上がるようにできて、結局 1,800 人に今年は見やすくなった花火を楽しんでいただきました。できるだけ親切に親切にということをやっていますので、そういう観点から渡し船ができないかというのをやらせていただきたいと思います。

【女性】 その日だけでいいんです。普段は 7 時でいいんです。なぜあちらが混むかという、三津の駅で降りて見に行くの相当時間がかかるんです、たくさんの人でぞろぞろ歩くから、それで、横河原の人とかも港山で降りて渡し船でわたったら時間もすごい短いので、皆さん思っているよりたくさん港山で人が降りてるんです、そういうことを考えてほしいなど。

【市民部長】 利便性のほかにももしかしたら安全運航といった問題もありますので、持ち帰って必ずお答えさせていただきますので。貴重な提案検討させていただきます。人命の問題とかいろいろありますので、よろしくお願

ます。

【男性】 私はみなとまつりの事務局をやっております、先ほどの件は 2001 年に松山市の港務所とお話をしました、2001 年から花火少し大きくなりました、三津の渡しは航路を横断する方向で運航しております、プレジャーボートとかがどんどん出ていくんです、帰りは花火が終わると高速で戻ってくるんです、その時に渡し船が航路を横断して、通常以上にプレジャーボートが出ているものですからとても危ない、こらえてくれないかというのが港務所からの話、確かに安全上、私たちもそれまでは時間延長やっているのを知らなかった、もう今年からこらえてくれということで、2001 年に私どもみなとまつりと合意しまして、安全のために中止しましょうということでお話が出ました。

【市長】 教えていただいてありがとうございます。今経緯がわかりましたので、ちょっと持ち帰らせていただいて、どういうことができるのか。

【女性】 もうちょっと皆さんに徹底したらいいと思うんです、いっぱいいらっしゃるんだけどもう動かないというのはどうかなど。

【市長】 わかりました、教えていただいてありがとうございます。

【男性】 三津は海と山と川に囲まれているんですが、どれも全く縁がないというか、海に出ればただ海だけ、水に浸かることもできないし、川といえば入ってはいけないし、流れを見てるだけ、山といえば古三津のほうで全く行けないということで、川もちょうど今頃の季節なんです、引き潮にかかって干潮になるとちょうど湾内のところで昔の缶詰工場が垂れ流ししていた当時のヘドロがたまって非常な悪臭を放って、風向きによっては三津のまちが、昔にくらべたらにおいては軽くなってるんですがそれでもおう。海は海で巡視艇があつて全く海と親しむことができないということで、そここのところある程度、三津といえば海が近くて目の前が海があつても、小学校も泳げる子がほとんど少ない、昔は、三津浜小学校は興居島まで遠泳をしていたそうなんですけど、そういう子が一人もいなくなりまして、泳げない子がほとんどになってきました。それでももう少し海岸線そんなに使っていないんだったら、もう少し市としても県に対して、海岸を一般市民も使えるような形で整備をしてもらえればありがたいと思う。それと消防署の隣が空き地になって、あそこならそのままの形で何も使われていないんだったら、子どもたちに開放してもらえないかなど、三津大可賀公園というのが三津の端か

らいくと 1 キロちょっと離れている、三津は 1 キロ四方で、端のほうから行くとあそこはちょうど三津のはずれになるんで公園がないんです、子どもたちが遊ぶところがなくて、小学校もスポ少が放課後占領しておりまして、校長先生がある程度使ってないときは開放していただいているんですが、なかなか遊ぶことはできなくて、子どもたちがかわいそうなところがある、そういうところを考えると三津地区の公園の整備も考えていただければありがたい。

【市長】 先ほどの緑地ですね、冒頭ありました朝市の活性化と絡めて考えていけるんじゃないかと思ってます。これは皆さんとどんなふうにしていきたいか、三津の朝市のそばになりますんで、どんなふうにしていきたいかというのを一緒に皆さんと考えていきたいと思えます。そんなに難しい話ではないかなと思っております。また、消防署のお隣のことでなんですけど、これは大いに使えます。あそこ、役割としては消防の訓練をする場所であったり、大きな災害が起これば基地になる所で、そういう役割はあるんですけど、一時的に使うのであれば大丈夫との報告を受けておりますんで、あと具体的に、課長。

【消防総務課長】 西消防署の横の空地ですが、平成 7 年に西消防署ができました、その年に阪神淡路大震災が起こりまして、横の空地というのは今現在は緊急消防援助隊といいまして、先般の東日本の大地震にも愛媛県隊として松山市が県隊長をとって出発したんですが、その集結拠点に指定しているところです。ですから災害が発生すれば緊急車両の集結場所になりますんで、その場合には遠慮していただきたい、それと救助隊が周辺の住民の皆さんに気を遣いながら訓練する場合もありますんで、そういった訓練の時もご遠慮させていただいて、西消防署にご相談いただければ、空いてる時間を開放することはできますので、ご相談いただいたらと思います。

【市長】 今、お聞きいただいたように、ちょっと消防署の横使えんのかなあと考えていてもこうやって相談いただけたら、一時的にお貸しすることはできますという答えもありますので、下水のこともありましたけど、相談していただけたらできることっていうのはありますので、ご相談いただけたらと思います。冒頭三津の朝市のことについてお話が出ましたけど、私は地元の方にも楽しんでいただく場所にしたい、観光客の方にも楽しんでいただく場所にしたいと思ってます。ただただ観光バスで乗り付けてそれで終わりじゃなくて、三津にはせっかく郷愁

を感じさせる路地であったり、町並みであったり、木子七郎さん、万翠荘をつくったり県庁作ったりした木子七郎さんが作った石崎汽船であったり、森家であったりいい資源がありますので、今、「松山はいく」という旅行商品、三津浜を歩いてねという旅行商品もできてるんですけど、できるだけ歩いてもらって三津の魅力に気づいてもらったらと思ってますんで、これまさに皆さんとこれから作りあげていく計画だと思ってますので、どうぞこれからも皆さんいろいろと意見を出していただけたらと思います。また、今日なかなか出せなかった意見は、市長へのわくわくメールという門戸を常にかけておりますので、こちらのほうもご活用いただけたらと思います。今日は本当にありがとうございました。

(拍手)

—— 了 ——